

①広告主名 加藤和成 (民人)	②著作物等の種類 言語の著作物
③著作物等の概要 著作物の題号： 「日中の職場の愚痴もいら立ちも授業に出づれば忘れ得るかな」 外 118件 (著作物一覧参照) 著作者名：神山卓也	
④連絡先 法人名 担当者名 加藤和成(民人) 住所 神奈川県鎌倉市岡本 1241-4 鎌倉ロジューマン B-306 TEL 090-1152-7001 E-mail wind.-sun-317511@outlook.com	
⑤詳細 ・上記著作物を歌集『記憶の小箱 神山卓也歌集』として1冊にまとめ100部印刷（複製）し、無償にて配布（譲渡）したいと考えております。  ・本件著作物の著作者である神山卓也は、平成27年1月頃まで広告主と、葉書等郵便でのやり取りがあったところ、音信が途絶えました。その後、神山卓也の住所地であり、所有物件であった不動産の全部事項証明書を取得したところ、当該物件の登記名義人は、平成30年6月10日に相続人不存在により「亡神山卓也相続財産」に変更され、令和1年5月30日に登記されたことがわかりました。  ・そのため、神山卓也はすでに死亡しており、本件著作物の相続人は不存在であると考えられます。  ・しかし本件著作物の著作権が、生前譲渡された可能性もあることから、著作権者の調査を行っておりますが、著作権者の所在は不明で連絡をとることができておりません。  ・著作権者もしくは著作権継承者の連絡先に関する情報をお持ちの方は、上記連絡先までご連絡ください。	

■著作物一覧

No.	著作物の題号	著作者名	著作物の種類	当該著作物が利用された実態 (巻号・発行年・発行元)
1	日中の職場の愚痴もい ら立ちも授業に出づれ ば忘れ得るかな	神山卓也	言語	第12回短歌現代新人賞佳作として 受賞し、短歌新聞社より1997年 8月1日に発行された『総合短歌雑 誌短歌現代 8月号』に掲載された 短歌
2	仕事終へ走り来れども 教室の明かりは既に消 されてみたり	神山卓也	言語	
3	わが業務遅るればこの 大学院在籍するだに肩 身が狭し	神山卓也	言語	
4	七年間研究のために作り 来し統計プログラムがや うやくできたり	神山卓也	言語	
5	修論の提出日今日は半 休を取れよと上司が言 ひてくれたり	神山卓也	言語	
6	製本を終へたる修論を 手にすれば二年の労苦 の思ほゆるかな	神山卓也	言語	
7	最低限の研究テーマしか し得ぬまま在学期間は終 はりてしまひぬ	神山卓也	言語	
8	校門を出づれば東京タ ワーの上満月見ゆるを 励みに通ひぬ	神山卓也	言語	
9	満月も凍るごとくに見 ゆる頃二年の学業が終 はりつつあり	神山卓也	言語	
10	このレポートを出せば全てが 終はるのだと思ひつつ事務室 のドアをノックす	神山卓也	言語	
11	受話器を置きたる途端に 電話がまた鳴り出せばわ が業務進め得ず	神山卓也	言語	第13回短歌現代新人賞佳作として 受賞し、短歌新聞社より1998年 8月1日に発行された『総合短歌雑 誌短歌現代 8月号』に掲載された 短歌
12	プロジェクトは遅れてを れども照会の電話が非情 にまた鳴り始む	神山卓也	言語	
13	訊く前に自分で調べて みてくれと怒鳴りたく なる瞬間のあり	神山卓也	言語	
14	タクシー代払ひたくな し終電を目指して会社 から走りに走る	神山卓也	言語	
15	階段を駆け登り終電に 跳び乗れば一日の疲れ の深々覚ゆ	神山卓也	言語	
16	睡眠を四時間しか取り得 ぬ日の続きて今朝は頭が	神山卓也	言語	

	朦朧としてをり			
17	進捗に遅れは無けれど 未完了の報告は遅延と 誤解されたり	神山卓也	言語	
18	このステップでどうしてデー タがドロップするのか考へて も考へても分からず	神山卓也	言語	
19	とりあへずドロップせぬやう このデータを直して無理矢理 テストを続けむ	神山卓也	言語	
20	夜明けまでにはテストを終へ たしわが時計は二時を過ぎ三 時を過ぎ四時を指したり	神山卓也	言語	
21	十六進数なら二十三歳 と言ひたる直後に空し さ覚ゆ	神山卓也	言語	第14回短歌現代新人賞佳作として 受賞し、短歌新聞社より1999年 8月1日に発行された『総合短歌雑 誌短歌現代 8月号』に掲載された 短歌
22	やがて来る決算計上ピーク期 の電算処理ラッシュを身震ひ して待つ	神山卓也	言語	
23	保守契約更新老朽機入替 と決算ピーク前に多々や らねばならず	神山卓也	言語	
24	電算作業は無事に終はり てゐるらむか帳票整備機 は稼働してをり	神山卓也	言語	
25	保険証券はベルトコンベ アーを次々と折られて流 れて封筒に入る	神山卓也	言語	
26	幾度となくテストをすれど改 善無き封筒の前にて業者立ち 尽くす	神山卓也	言語	
27	うつらうつらと眠らむばかり に疲るれば今宵は残業切り上 げて帰らむ	神山卓也	言語	
28	わが仕事辛しと思へど同 僚もばたばたしてをり助 け合ひもできず	神山卓也	言語	
29	造成地の崖より流れ落 つる雨は川と化しつつ 歩道を走る	神山卓也	言語	
30	リストラを企業に強ふる 社説読めば解雇されゆく ひとらを思ふ	神山卓也	言語	
31	目を閉ぢてひざまづき たり演奏の前に心を澄 まさむとして	神山卓也	言語	短歌21世紀発行所より1998年 1月1日に発行された、雑誌『短歌 21世紀 創刊号』に掲載された短 歌
32	三年振りステージに立て り照明とモニターと全て が愛し	神山卓也	言語	

33	ステージに上げればエレキの音よりも胸の鼓動の大きく思ほゆ	神山卓也	言語	
34	わが曲を聴かむとしたる友らにて最前列に座りてくれたり	神山卓也	言語	
35	思ふことありてバラードとスピードメタルの二曲を選びぬ	神山卓也	言語	
36	観客の一人一人の目の色をステージの上よりわが確かめぬ	神山卓也	言語	
37	舌打ちをしたくなりたりこの俺は自作曲さへ間違へてゐる	神山卓也	言語	
38	プログレ風だねと最も言はれたき評論を友が言ひてくれたり	神山卓也	言語	
39	帰宅してライブのテープ聴きたりきわが下手なギターに怒りこみ上ぐ	神山卓也	言語	短歌21世紀発行所より1998年2月1日に発行された、雑誌『短歌21世紀 第2号』に掲載された短歌
40	わがひきしギターを聴けば陶芸家が作品を投げ割る気持ちが分かる	神山卓也	言語	
41	演奏のミスだけでなくエフェクターのわが設定も謝りてゐたり	神山卓也	言語	
42	演奏の反省は尽きねど三年振りのライブ・ステージの思ひ楽しむ	神山卓也	言語	
43	いま我がこの船の舵を持つてゐると思へば緊張に足が固まる	神山卓也	言語	短歌21世紀発行所より1998年3月1日に発行された、雑誌『短歌21世紀 三月号』に掲載された短歌
44	六十度に方位あはせて保たむと遠くの岬を見つつ舵持つ	神山卓也	言語	
45	目標のブイ探さむと焦れども波ばかり見えいづこにも無し	神山卓也	言語	
46	丸く赤きブイ一列を見定めて舵行の進路を心に決めたり	神山卓也	言語	
47	右前方六十度にブイが来れば今が右転舵をわがする時ならむ	神山卓也	言語	
48	着岸の練習を幾度もしてみれど進入角が浅過ぎてをり	神山卓也	言語	
49	幾何学を考へ海図に線を引く要領は簡単なりと思ひぬ	神山卓也	言語	

50	船は揺れ手に重ければ 六分儀で緯度を測るは えらく難し	神山卓也	言語	短歌21世紀発行所より1998年 4月1日に発行された、雑誌『短歌 21世紀 四月号』に掲載された短 歌
51	一級にて四級より航海学 が高度なり海図や方位な ど興味は尽きず	神山卓也	言語	
52	航海の実技の試験は終 はりたり接岸はうまく わが行かざれど	神山卓也	言語	
53	一級の資格を取りたり 有事には小型艇操船に 志願し得ること	神山卓也	言語	
54	安保堅持の論張る我は 有事には率先して前線 に行かうと思ふ	神山卓也	言語	
55	わが資格で乗り得る二十トン 以下の艦艇の海上自衛隊に少 なし口惜し	神山卓也	言語	
56	船員減の今日我こそレジャー でも構はぬ海技の裾野を維持 せむ	神山卓也	言語	短歌21世紀発行所より1998年 5月1日に発行された、雑誌『短歌 21世紀 五月号』に掲載された短 歌
57	君の電話番号押さむと 思へども胸鳴り指震へ て今宵あきらむ	神山卓也	言語	
58	呼び鈴が鳴る前にフックに手 を伸ばすどうしても君に電話 ができない	神山卓也	言語	
59	叶はぬと予感してをれせ めて一度チャレンジせね ばあきらめきれず	神山卓也	言語	
60	夜ふけてデートの誘ひの文を 書く手紙なら素直になり得る と思ひて	神山卓也	言語	
61	この文をどんな顔して読むの だらうときどきしながらポス トに落とす	神山卓也	言語	
62	叶はぬと覚悟してをれ ば断りの文面読めども 心騒がず	神山卓也	言語	
63	断りの返事をゆつくり 読む勇氣無ければ斜め 読みをしてをり	神山卓也	言語	
64	好きな人がゐるといふその好 きな人に会ふ前の君に会ひ たかつた	神山卓也	言語	
65	主の祈り以外に初めて わがために祈りぬ君の 承諾願ひて	神山卓也	言語	
66	君がみてくれれば仕事 も研究も全てに戦ふ勇 気の湧くか	神山卓也	言語	

67	五分でも十分でもいい その声を聴きたし吾は 携帯取り出す	神山卓也	言語	
68	夜早き君を思へば残業 後わがためらはず又電 話せり	神山卓也	言語	
69	貴方との電話を終へてベート ーベンの月光を聴けり安らぐ 思ひに	神山卓也	言語	
70	砂漠を行く人描きたる 君の絵は見る時々にわ が心打つ	神山卓也	言語	
71	印象派の絵画展にて画 家君が話を聞けり心ふ るるか	神山卓也	言語	
72	結婚には迷ひがあると 言ふ君の心の揺れの我 にせつなし	神山卓也	言語	
73	言ひたきこと山程あれ どもどうせ無駄と思へ ば吾は黙して	神山卓也	言語	短歌21世紀発行所より1998年 10月1日に発行された、雑誌『短 歌21世紀 十月号』に掲載された 短歌
74	かつて父が来し道なぞ るか異動への思ひは空 し昇格は空し	神山卓也	言語	
75	忠誠心消ゆれど武家の出自ゆ ゑ「命を惜しむな」のモット ーのあり	神山卓也	言語	
76	『失敗の本質』読めばノモン ハンもインパールも我にはわ が社のごとし	神山卓也	言語	
77	夜ふけて疲れて帰れば 要員の不足に気づかぬ 上層部恨めし	神山卓也	言語	
78	一月も風邪治らねば連 日の残業の疲れの重さ に気づく	神山卓也	言語	
79	熱退かずベッドにをれば 未完了のタスクの山が気 になりてをり	神山卓也	言語	
80	十七年振りに札幌に來 て見れば通ひし中学は 無くなりてをり	神山卓也	言語	短歌21世紀発行所より1998年 11月1日に発行された、雑誌『短 歌21世紀 十一月号』に掲載され た短歌
81	教室も練習してみシテニ スコートもありし場所さ へ今は分からず	神山卓也	言語	
82	あの頃と変はらぬ路面 電車見れば友と通ひし 朝夕思ほゆ	神山卓也	言語	
83	住てみし団地を見れば 今もなほ父母のゐるや うな気がして	神山卓也	言語	

84	喜びも悲しみも多く過ぎ行けど藻岩山の稜線は今に変はらず	神山卓也	言語	
85	性格のきつき我なりき友たちはそれでも優しく接してくれたり	神山卓也	言語	
86	実家移り母校の消ゆれば友だけが今では札幌との絆になりぬ	神山卓也	言語	
87	一瞬の心の動きを逃さずに詠みたし憧れる印象派のごとくに	神山卓也	言語	短歌21世紀発行所より1998年12月1日に発行された、雑誌『短歌21世紀 十二月号』に掲載された短歌
88	修正予算策定がやうやく終はりたり週末はわれは札幌に行けるぞ	神山卓也	言語	
89	やうやくにその面影浮び来るこの会に人ら誰見ても美し	神山卓也	言語	
90	いつの間に脱皮したのか中学の頃はこんなに眩しくなかつた	神山卓也	言語	
91	昔のままこの街に住む友と会へば転校多かりしわが身の寂し	神山卓也	言語	
92	約束の十月の来て一日たちまた一日たてど連絡のなし	神山卓也	言語	
93	ギルガメッシュ叙事詩を前期に学んだのと語る貴方の声は明るし	神山卓也	言語	
94	ほのかにてたちまち逃げてしまひさうな心なりしかとしばし思へり	神山卓也	言語	
95	少しづつ少しづつ心寄りてゆかむ激しさよりも永続がいい	神山卓也	言語	
96	誰もみない部屋に帰ればただいまと言ひたりもう一度ただいまと言ふ	神山卓也	言語	
97	ベートーベンの Ich liebe dich を聴きながら言へる日願ふよ So wie du mich と	神山卓也	言語	
98	かくのごと湧きくるこのせつなさにギターを一人つまひいてゐる	神山卓也	言語	
99	せつなさを持って余してゐるこの夜ふけ globe の曲を繰り返し聴く	神山卓也	言語	
100	違ふ違ふ本当に話したいことはこんな話ぢやなかつた筈だ	神山卓也	言語	短歌21世紀発行所より1999年2月1日に発行された、雑誌『短歌21世紀 十二月号』に掲載された

101	ポーズボタン押せば押し たいお別れのこの携帯が 切れない内に	神山卓也	言語	短歌	
102	君からのメール画面の 「さようなら」幾度開け ど文字は変はらず	神山卓也	言語		
103	願ひなど消えてしまつ たこの夜ふけ流星群は みないでおかう	神山卓也	言語		
104	君去れど昨日と同じ日 が昇り萌ゆる丘陵を見 るはせつなし	神山卓也	言語		
105	廊下にてすれ違ふ時「お 早う」と言ひたり明るさ 演じむとして	神山卓也	言語		
106	夜ふけてホームの鳩に 餌をやる男あり柔和な る表情をして	神山卓也	言語		短歌21世紀発行所より1999年 3月1日に発行された、雑誌『短歌 21世紀 三月号』に掲載された短 歌
107	雨粒はレールをはだら にうがつ度白く光りて 輪になりて散る	神山卓也	言語		
108	電車去る音のしじまに 消ゆる時眼閉づれば雨 音静けし	神山卓也	言語		
109	百四十年我ら慶應の塾 員が誇り来し幻の門消 ゆるといふ	神山卓也	言語		
110	幻の門より出陣せし先 輩過半は戻り得ざりき と聞く	神山卓也	言語		
111	ゼミの後みんなで幻の門 を過ぎ喫茶店でたむろせ し日々の懐かし	神山卓也	言語		
112	あの頃は夢しか無いけど 夢だけは今よりたくさん あつたと思ふ	神山卓也	言語		
113	中上川彦次郎や荘田平 五郎のごとくなりたき 夢は消えたり	神山卓也	言語		
114	疲れたといふのが土曜の メールなり疲れたといふ 意味が気になる	神山卓也	言語	短歌21世紀発行所より1999年 12月1日に発行された、雑誌『短 歌21世紀 十二月号』に掲載され た短歌	
115	四日間メールが無いのは 風邪ゆゑかそれとも他に 何かあるのか	神山卓也	言語		
116	重荷といふ意味が分からずあ のひとは独りが寂しくないの だらうか	神山卓也	言語		
117	ずっと楽しかつたでせう か僕が今唯一知りたいき がかりなこと	神山卓也	言語		

118	また一つ増えてしまつた鍵かけて深く静める 記憶の小箱	神山卓也	言語
119	本当なら今日は貴方の街 に行きデートをしてゐる 筈だったのに	神山卓也	言語